



## 第81回 雪にまつわること

### ▼雪にまつわること

先月から例年になく雪がよく降る。年末年始は大雪で、いまも外は雪景色である。外勤で日野郡方面に行くことも多いのだが、さすがに標高が上がると圧雪になる。一晩で一気に積もる場合もあり、なかなか予測できないのが正直なところだ。一昔前は積雪が半端なくて雪のため休校というのが時々あった。テレビで大雪のときは軒下を通らないようにと注意がでていたが、そんなのは当たり前。屋根の雪落ちを確認して、屋根から落ちた雪を集めてかまくらを作って遊んでいたくらいだ。少し雪が溶けて再寒波で冷え込むと、道路が凍結してしまう。こちらのほうがもっと危ない。凍結した路面を歩くときは足裏全体に体重をかけ小股で歩くのがコツだ。そう考えると、雪の降り積もる地方で育ったことで、いろいろ生活の知恵が身に付いたともいえる。

### ▼コロナと雪

コロナ禍で外出できない日々が続いている。リモートで仕事して自宅で過ごす時間が増えストレスのたまることもある。そんなとき、子供のころ大雪のため家で過ごした時間を思い出す。その頃の1日は、まず朝起きて外の雪を確認、大雪なら学校が休みでラッキー、居間の堀ごたつを持ちあげて、ばあちゃんがおこした練炭を入れ、家族全員でしっかりぬくもる、そして朝ごはんを食べる。おもむろに外に出て、雪こぎしてみても雪の深さを実感し、おおいに満足する(唐突に新雪に倒れてみたりする)。こたつにもどって冷えた足を入れると、先に暖をとっていたネコにひっかかれる。ぼんやり天井の模様を見ながらまどろみ、いつのまにか眠っている。思い返してみると、夢のような時間だった。大雪の日はなぜあんなに楽しかったのだろう。

### ▼静かな時間を持つということ

大人になると一日の仕事やスケジュールが決まっており、それをこなすので精一杯である。コロナ禍や大雪で自宅にいて、あれもできないこれもできないとイライラする。でもよく考えてみると、本当にやるべきことがそんなにあるわけじゃない。メールやリモートで対応できるものはそれでよし。余った時間は、のんびりすればよいのだ。さすがに、今は雪の中で遊ぶことはないけれど、子供のころ「ぼんやり雪を見ていたこと、こたつに寝そべて天井の模様をながめていた時間」を思い出す。時間がもったいないと考えるのは現代人の病いである。ミハエル・エンデの「モモ」に時間泥棒の話が出てくるが、私たちは知らないうちに時間泥棒に「自分の時間」を売り渡しているのではないだろうか。雪の日には、静かに時を過ごすというぜいたくを、味わいたいものだと思うのである。



鳥取大学医学部  
地域医療学講座  
教授

谷口 晋一  
(たにぐち しんいち)